

| | | | | | | | |
|---|--|-----|------|---------|-----------------|-------|----------------|
| 授業科目(ナンバリング) | 地域産業の魅力 (CA222) | | | 担当教員 | 森尾 真之 | | |
| 展開方法 | 講義 | 単位数 | 2 単位 | 開講年次・時期 | 2 年・後期 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業のねらい | | | | | | | アクティブ・ラーニングの類型 |
| 本講座は、大学のある地域産業の成り立ちや地域の課題についての理解を深め、その課題解決のために、観光やまちづくりなどを通じた地域活性化のリーダーとして活躍することを目指し、さまざまな企業・団体から派遣される講師から事業の取り組みや実践について学ぶ。また、さまざまな地域の活動を取材し、記事の編集を課題として行うことで、自分なりの地域を見つめるまなざしを持つことを目指す。その上でそれぞれの活動の背景にある理念や考え方に触れ、社会に貢献し、自分らしい働き方とは何かを考える。 | | | | | | | ①②⑥⑩ |
| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | | | | 評価手段・方法 | 評価比率 | |
| 専門力 | 自分が関心のある課題については、その背景や担当講師の所属する企業・団体に関してさらに詳しく説明できる。 | | | | 課題レポート (manaba) | 50% | |
| 情報収集、分析力 | 講師の所属する業界・団体の具体的な取り組みについて、その背景や目的、他での先行事例などについて事前に情報収集し、講義の内容をより深く理解することが出来る。 | | | | 課題レポート (授業ノート) | 10% | |
| コミュニケーション力 | 地域への取材を通して、相手の話を傾聴し、その内容を自分なりに精査して、与えられた字数制限内での確に文書で表現することが出来る。 | | | | 課題レポート (地域編集) | 10% | |
| 協働・課題解決力 | 講師の取り組みや取材を通じて、地域における課題について、自分なりの意見を述べ、活発な意見交換を行うことができる。 | | | | 課題レポート (地域編集) | 10% | |
| 多様性理解力 | 地域経済活動における様々な産業がどのように状況にあり、地域の魅力を向上させるためには、どのような組み合わせがどんな価値を創り出すのかを、これまでの実例から理解することができる。 | | | | 課題レポート (manaba) | 20% | |
| 出 席 | | | | | 受験要件 | | |
| 合 計 | | | | | 100% | | |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | | | | | | | |
| <p>(1) 指定の授業ノートの記載とmanaba上の課題レポート(計7回、配点合計 80%)では、毎回の講義のポイントを授業ノートに記載し、自分が特に興味を持った地域課題について、自分自身の問題意識と考えられる方策についてレポートとして記述することを求める。Manabaでの質問については、ゲストスピーカーからの回答を講義中の紹介、またはポートフォリオから学生へのフィードバックとする。</p> <p>(2) 地域編集については、取材及び編集した文章をレポートとして提出する。フィードバックについては、外部講師および担当教員から行う。(20%)</p> | | | | | | | |
| 授業の概要 | | | | | | | |
| <p>地域課題や観光・まちづくりに関する現役の実務家である外部講師と旅行業界においてインバウンド観光客招致等を通じた地域活性化の実務経験のある担当教員との協働による実践的な授業である。</p> <p>(1) 県内外の企業・団体、自治体から派遣された経営管理者、専任担当者がゲストスピーカーとして講義する。</p> <p>(2) 地域編集については、実際の編集者から取材対象の選定、取材方法、文章の編集ポイントなどを学ぶ</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p> | | | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | | | |
| <p>教科書：なし</p> <p>参考書：なし(※ただし講義中に講師から推薦される場合もある。)</p> <p>指定図書：飯田泰之著(2016)『地域再生の失敗学』(光文社新書)</p> | | | | | | | |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | | | | | | | |
| <p>本講座のために各産業界から講師を招聘しているが、多忙のなかで本学に来ていただく講師への礼儀としても、時間厳守、真摯な受講態度を求める。地域ならではの豊かな生き方、働き方の質の向上は、観光面でも大きな影響を及ぼすことから、講義内容は多岐にわたるが、地域におけるあらゆる課題についての見識や教養が必要であることを十分理解してほしい。各講師の豊かな経験と積極的なライフスタイルから、今後の自身のキャリアや生き方を考える上で大切な気づきになるよう、積極的に参加してほしい。</p> | | | | | | | |

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|-------|-------------------------|---|--|
| 1 | オリエンテーション | シラバスの説明、長崎県の地域課題の背景やポイントを整理して考える。また、各予定外部講師の簡単な紹介やしかるべき対応態度などの注意点について説明。 | 予：シラバスを事前に読み込んでおく |
| 2 | 地域でのキャリアを考える（事前準備①） | 変化が激しく先が読みづらい現代に対応した新しい概念の就活においては、自分の「素」が求められる。苦しくなりがちな就活も、根本を理解できれば楽しみながら進めることが可能（外部講師による講義） | 予：自分の生活環境について良い点と悪い点を書き出しておく |
| 3 | 地域でのキャリアを考える（事前準備②） | 自己理解および本カリキュラムのゴール経験したエピソードをもとに自己と向き合い、自身が気づいていない「自分」を理解する。それをもとに以下の各講師の講話と自己との接点をいかに捉えるか。これらを最終アウトプットにつなげる（外部講師による講義・ワーク） | 復：現状の自分に過去の出来事が影響していることはないかを考える。 |
| 4 | 地域の会社ができる価値創造 | 地域に根差す企業がその組織の存続において、地域の共通価値（社会的包摂）や持続した社会貢献が必要であることを学ぶ（ゲストスピーカー・実務家） | 復：地域の企業の社会的な存在価値と働く人の意識について考える |
| 5 | これからの働き方と地域の魅力の発掘の取り組み | 自分の価値向上は、地域の価値を考えることにもつながる。地域における事業創造と自分の生き方における豊かさとは何かを考える。（ゲストスピーカー・実務家） | 復：都会と地域の暮らしのメリット・デメリットを考える。 |
| 6 | 市街地の再活性化と観光まちづくり | 街のにぎわいを維持することに必要なことは何か。住んでよし、訪れてよしという観光まちづくりとはどんなものかを考える（ゲストスピーカー・実務家） | 復：自分の街の気に入った場所を人に勧めるにはどう説明するかを考える。 |
| 7 | 縮小する地域と教育について | 縮小する地方コミュニティの維持には都会との格差を解消しつつ地域への愛着を持たせる教育が不可欠であり、そのための「学び」と「体験」の重要性を理解する。（ゲストスピーカー・実務家） | 復：自分が提供できる価値は何かを他者と意見を交換する。 |
| 8 | 若者がいきいきと取り組むまちづくり | 空き家の活用などの地域課題と向き合いながら、若者や地域の人と混ざるまちづくりの在り方を考える。（ゲストスピーカー・実務家） | 復：地域に関して学ぶことの大切さを、今の自分と比較して整理する。 |
| 9 | すべての人の楽しい暮らしのための地域のつながり | 誰もがはたらく喜びを実感でき、主体性をもって暮らせる地域社会の拠点「まちのリビング」運営の実践について学ぶ（ゲストスピーカー・実務家） | 復：地域での新事業のアイデアを考えてみる。 |
| 10 | 移住者を呼び込むにぎわいづくり | 地域におけるコミュニティによる移住者への生活面やビジネスでの支援を通じて、多様性を持つ地域の魅力について考える。（ゲストスピーカー・実務家） | 予：自分が設定する地域課題についてその理由を明らかにしておく。 |
| 11 | 地域編集について① | 地域の活性化を考える上で、地域の資源をできるだけ活用し、多くの人に知ってもらうことで「関係人口化」を進めていくことが重要である。地域の人がいかに再評価し、外部の人に興味を持ってもらい、遊びに来て、共にはたらき暮らしてくれる仲間を増やすことにつなげる意義を考える。（ゲストスピーカー・実務家） | 復：自分の住む地域で変わってほしいことは何かを考える。 |
| 12・13 | 地域編集について②③ | 地域の活性化を考える上で、地域の資源をできるだけ活用し、多くの人に知ってもらうことで「関係人口化」を進めていくことが重要である。地域の人がいかに再評価し、外部の人に興味を持ってもらい、遊びに来て、共にはたらき暮らしてくれる仲間を増やすことにつなげる意義を考える。（ゲストスピーカー・実務家） | 予：自分の住む地域での取材対象を想定する。 復：講義で提示される編集記事を読んで、自分なりにそのポイントを考える。 |
| 14 | 地域でのキャリアを考える（振り返り①） | 各講話の振り返りおよび第3回講義で深めた自己および各講話を改めて振り返り、自己と各職業との接点があるとすればそれは何か。抽象的な概念にて自己と職業との接点を考える（外部講師による講義・ワーク）。 | 予：各講話の振り返りおよび自己と職業との接点 |
| 15 | 地域でのキャリアを考える（振り返り②） | 第14回講義で深まった「自己と職業との接点」についてのアウトプットおよびフィードバックを通じ、自身の将来について向き合う。今後の就活の指針および軸を作る（外部講師による講義・ワーク）。 | 復：接点のアウトプットおよびフィードバック |